

節分行事に思いを込めて

仲嶺 真弓

節分の季節がやってきました。今年も各クラスで子どもの成長に合わせて節分行事を取り組みました。毎年職員は、昔からある日本の伝統行事である「節分」の由来や意味を理解したうえで、子どもたちに何を伝えたいかを考え、行事内容を企画しています。ただ“鬼は怖い”だけで終わるのではなく、子どもたちにとっても自分について客観視できる機会でもあると考えています。絵本を利用して、自分の中にも鬼（邪気）がいることを知り、その鬼（邪気）を節分で来る鬼がとりに来てくれる。勇気をだして自分で豆をまいて鬼（邪気）を追い払おう。そんな思いを込めて取り組んでいます。もちろんそんな高度なことができるのは4・5歳児でも難しいことではありますが、自分について考えてみる体験を大切にしています。2・3歳児は鬼のことを知る取り組みなどを行っています。0・1歳児は鬼と出会う初めての体験を大切にしています。（節分までの各クラスの取り組みや様子はクラスのページに書いてあるので見てもらえると嬉しいです。）

節分当日は子どもたちを怖がらせることが一番の目的ではなく、子どもたちへの配慮は忘れずに、鬼の立ち入り禁止区域を設けています。（鬼と初めての出会いとなる0・1歳児の室内侵入は全面禁止で、戸口でのパフォーマンスだけをお願いしています。2歳児から室内に侵入してもいい範囲を少しずつ広げ、鬼に頭をなでてもらうなどしてもらっています。2・3・4・5歳児は保護者と相談の上、鬼に抱きかかえて、つれて行かれそうになる子も…。職員もつれて行かれる場面を設定し、子どもたちが勇気を出して鬼に豆をぶつけ、助けに行けるよう場面設定を考えています。その年によっては3・4・5歳児部屋にも安全区域をつくる、怖がる子には職員がそばにつくようにするなどの配慮をしています。）日頃は物静かな子が思わぬ力を発揮したり、反対に日頃はやんちゃ・おてんばさんが部屋の隅っこでじっとしていたりすることもあり、日常では気付かない子どもたちの意外な一面を知ることができる機会でもあります。鬼役の方には前もって説明する時間を設け、園内ルートの提示や子どもたちに配慮してほしいこと、反対に子どもたちが怖さのあまり叩いたり、噛みついたりする可能性もあることを伝えています。万が一、想定外のことが起こった時には、各クラスの職員が耳打ちで「そこダメ」など伝えるなどして対応しています。そしてほっこりする一時（ホール前の中庭で鬼が集まり鬼ダンスをする）も企画に盛り込むようにしています。怖いだけでない鬼の一面を見る子どもたちの表情が毎年印象的です。年に一度の“邪気払い”怖いけど、大切にしたい風習であります。

当日、ボランティアで鬼役をしてくれるのは、大阪体育大学のサッカー部の学生さんが、後輩に引き継いで来てくれます。保育園とは関わりがない学生さんが、行事を通して子どもたちのことや保育園のことを知ってもらえる大切にしたい機会と考えています。そしてもう一人…その学生さんを毎年親分鬼役でリードして束ねてくれるのが、元アトム園長で、つばさが丘住民でもある岩木さんです。今年も快く引き受けてくださいました。当日は、クリスマスのサンタクロースと同じように架空の鬼の世界を子どもたちの体験として心に紡ぎたいと思います。鬼役が子どもたちにばれないよう、行き帰りにも細心の注意をはらっています。行事終了後はお礼につばさ給食をお腹一杯食べてもらっています。

たかが節分、されど節分。毎年の節分行事にはそんな思いを込めています。鬼役の感想は次号つばさっ子で掲載しますのでお楽しみに。